

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																								
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																																								
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																								
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																								
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士																																							
文化・教養	芸術専門課程		音響芸術科			平成30年文部科学省認定	-																																							
学科の目的	音楽・音響ソフトに関する専門知識、技術を学び、映像・音響ソフト産業のコンテンツ制作で幅広く活躍できるサウンドエンジニアを養成する。																																													
認定年月日	平成27年2月17日																																													
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技																																						
	2年 昼間		1,710	1,035		0	1,530	0	0																																					
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																																				
80人		124人		0人		4人		28人		32人																																				
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S:90点以上 A:80～89点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下不合格 P:単位認定																																								
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月7日～9月9日 ■冬季:12月26日～1月6日 ■学年末:3月19日～3月31日				卒業・進級条件	【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。				課外活動	■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等																																								
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) カバー(株)、(株)サウンドインスタジオ、(株)シグマ映像、(株)シュリッツ、(株)SCENE、(株)スタジオインターフィールド、(株)ダブルゼロ、(株)TANQ、中央FM(株)、(株)tep、東映(株)、(株)東舞トータルサービス、(株)ラストネットワーク、ヌーベルアージュ(株)、(株)ビーム、MediaTunes ほか				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	(令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)																																								
	■就職指導内容 個人面談、模擬面接、合同企業説明会、個別企業説明会、業界セミナー、内定者体験談会、キャリアプランニングなど テキスト:キャリアサポートブック発行、内定者体験談ブック発行					<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>舞台機構調整技能士3級</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>ビジネス検定3級</td> <td>③</td> <td>66人</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>ProTools技術認定</td> <td>③</td> <td>1人</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>サウンドレコーディング技術認定</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>Avid Pro Tools101</td> <td>③</td> <td>67人</td> <td>67人</td> </tr> <tr> <td>Avid Pro Tools110</td> <td>③</td> <td>57人</td> <td>57人</td> </tr> <tr> <td>Avid Pro Tools201</td> <td>③</td> <td>66人</td> <td>66人</td> </tr> <tr> <td>Avid Pro Tools201</td> <td>③</td> <td>36人</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table>					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	舞台機構調整技能士3級	②	7人	4人	ビジネス検定3級	③	66人	54人	ProTools技術認定	③	1人	1人	サウンドレコーディング技術認定	③	13人	13人	Avid Pro Tools101	③	67人	67人	Avid Pro Tools110	③	57人	57人	Avid Pro Tools201	③	66人	66人	Avid Pro Tools201	③	36人	36人
	資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																										
	舞台機構調整技能士3級	②	7人	4人																																										
	ビジネス検定3級	③	66人	54人																																										
	ProTools技術認定	③	1人	1人																																										
サウンドレコーディング技術認定	③	13人	13人																																											
Avid Pro Tools101	③	67人	67人																																											
Avid Pro Tools110	③	57人	57人																																											
Avid Pro Tools201	③	66人	66人																																											
Avid Pro Tools201	③	36人	36人																																											
■卒業者数 : 72 人 ■就職希望者数 : 68 人																																														
■就職者数 : 61 人																																														
■就職率 : 90 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 82 %																																														
■その他 ・進学 2人 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)				①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄																																										

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 3名 ■中退率 2%</p> <p>令和3年4月1日時点において、在学者139名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和3年4月31日時点において、在学者134名(令和4年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由 病気療養・怪我治療 他</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 【片柳学園入学金免除制度】 学校法人片柳学園の設置する学校の卒業生の子女、兄弟姉妹および孫、または在校生の兄弟姉妹が入学する際に入学金を免除する制度</p> <p>【若きつくりびと奨学金制度】 社会に貢献する人材のさらなる育成を目的に、学ぶ意欲があり優秀な学生や経済的理由で就学が困難な学生に対し、返済不要の奨学金を給付する制度(成績優秀者特待生・課外活動優秀者特待生・資格特待生・就学支援奨学金・再進学特待生・留学生特待生)</p> <p>【再入学優遇制度】 日本工学院専門学校または日本工学院八王子専門学校の二年制学科以上の学科を卒業または卒業見込みの方が、本校の他学科への再入学を希望する際、入学選考料・入学金の免除、および審査により授業料等を減免する制度</p> <p>【留学生特別給付制度】 私費留学生の出願者全員を対象とし、入学選考試験の成績優秀者には進学支援として、入学金の一部または全額を免除する制度</p> <p>【ミュージシャン特待生】 ミュージックアーティスト科に特待生として出願し、試験に合格された方は、入学費用のうち入学金を免除する制度</p> <p>【サッカー・テニス特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって以下のいずれかを免除する制度 (入学手続時納入金免除、入学費用のうち前期授業料免除、入学費用のうち入学金免除、入学費用のうち入学金の一部を免除)</p> <p>【スポーツ特待生】 スポーツ健康学科・スポーツ健康学科三年制・スポーツトレーナー科・スポーツトレーナー科三年制に特待生として出願し、試験に合格された方は、成績によって入学費用のうち入学金または入学金の一部を免除する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価:有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accrreditation/</p>
<p>当該学科のホームページ URL</p>	<p>https://www.neec.ac.jp/department/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

レコーディング、映像分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。またレコーディング分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
宇佐美 友章	群馬県ネットメディア戦略アドバイザー	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	①
菅原 恭史	株式会社フリーマーケット	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
村尾 博一	株式会社ジーリンクスタジオ	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
朝比奈 孝浩	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
山口 卓司	日本工学院八王子専門学校 科長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	
加茂 文吉	日本工学院八王子専門学校 主任	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9～12月・1～3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月25日(金) 11:00～12:00

第2回 令和4年3月11日(木) 10:00～11:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

音響業界、とりわけ音楽レコーディング業界は、PCと専用ソフトウェアを使った音楽制作が進み、個人でミキシングを行えるようになってきた。よって、レコーディングスタジオの淘汰が進んでいる。このような状況にあって委員からは次のような意見があった。

- ・映像編集、MAを行うポストプロダクションでは、音響スタッフでもあってもAdobe Photoshopでのテロップ作成、Aftereffectを使った映像編集・加工の技術が求められる。
 - ・動画の制作、ライブ配信は増えている。一方でプロが聴くと歪みがあるなど音質が低い場合は多い。音質の改善・向上に気がつくような人は現場として採用したい。
 - ・アイドル系の楽曲分析をしてきたが、最近気がついたことはSONYの発売楽曲の音質がかなり良くなっている。自然と気がつかないところで音の良さを感じて売れているものも増えているのでは？ その流れが強くて出れば音のエンジニアの重要性も増してくると思われる。
- といった意見があった。音響芸術科としては、アーティストや番組に適した音作り、リスナーにとって快適な音作りについては継続して教育しつつ、動画制作や配信時に音響以外の動画やデザインスキルを学ぶ授業を1年次後期(22年10月)から2年次前期(23年9月)にかけて行うよう計画している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

レコーディングの実習において実践的な指導を受けるために音楽録音の実績のある企業を選定している。また、指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、感性を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
連携企業からの意見等を参考にし、音楽録音の仕組みや新技術などの技術提供を基にした実習へのフィードバックを行い、次年度のカリキュラムに反映させている。演習などの授業内容を映像化し、委員に見てもらいながら検証を行い、改善点などをフィードバックしてもらう。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
実習・演習1	レコーディング・MA・ラジオ等のスタジオワークに必要な、各種機材の基礎知識、基本となる作業、挨拶を含めた各種マナー等を学ぶ。	株式会社ミキサーズ・ラボ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規程における目的に沿い、サウンドエンジニアを養成のための最新技術の理解を深める。また、学科・カレッジ・学校単位での教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

- ・学生の在籍管理に関する情報共有と管理方法の確認に関する教員研修
- ・新技術を含めた専門的教育に関する研修
- ・分野ごとの専門知識習得に関する研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 <ART 音楽 映像 ICT プロデュース×ものづくり>をテーマにしたコンテンツデザインの事例 」(連携企業等:株式会社gekitez)

期間・令和3年6月29日 対象:ミュージックカレッジ教職員

内容:デザインとエンジニアリング、テクノロジーとサウンドのプロトタイピングをキーワードに、社会における「音」の機能と役割について再認識し、サウンドデザイン教育に関する新たな知見を学んだ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「 UI/UXを考慮した学生指導法 」(連携企業等:株式会社B.C.Members)

期間・令和4年1月20日 対象:ミュージックカレッジ教職員

内容:デジタル社会の中で特に遠隔教育において理解度を上げる鍵となるUXについて理解し、UI/UXを考慮した指導法を学ぶ研修を実施した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「 音楽業界が求める今後のサウンドクリエイター/サウンドエンジニア新入社員の在り方について～音楽指導者に求める基礎技能とは～ 」(連携企業等:株式会社バードランドミュージックエンタテインメント)

期間・令和4年10月予定 対象:ミュージックカレッジ教職員

内容:メロディライティングと、ミキシングの基礎をキーワードに、これからの音楽指導者が体得しているべき基礎技能の研修を実施予定。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「ICTリソースを活用する学生指導法」(連携企業等:FULMA株式会社)

期間:令和5年2月予定 対象:ミュージックカレッジ教職員

内容:先生の雑務を負担軽減し、授業品質を最大化するためのテクノロジー技法に関する研修を実施予定。

□

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力の向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について
評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・コロナ禍の予測不能の事態や学生への対応が実に丁寧になされ成果を上げていることが理解できました。理事長を先頭に新たな取り組みも着実に進められていることに敬服します。
- ・SDGsに関連する学校としての取り組み。実質、関連項目や実施している事はあるかもしれないが、説明のなかで「SDGs」という言葉が出てこなかった。関連する内容には入れても良いと思います。
- ・各分野において情報は常に更新されているので、教職員の方々の知識・情報もアップデートが重要と考えます。月1回の研修の成果・効果を確認するような取組も検討してはいかがでしょうか。
- ・コロナ禍において情報の収集・管理については難しい点も多いと思いますが、校友会・卒業生就職先とのコミュニケーション強化に努めていただければと思います。
- ・既に検討されていることと思いますが、保護者会もオンラインで開催するなど遠方でも参加できるような取組をされてもいいかと思えます(環境によってオンラインが難しい場合などは個別に電話対応など。すでに実施されていたらご容赦下さい)。
- ・コロナ禍及びワクチン接種も個人の考えで必須に出来ない中、日本工学院八王子専門学校様の対応を含めた活動は非常に参考となり、勇気をもらえたものでもありました。政府が明確な線引きをしていない現状では、企業も学校も探りさぐりにはなっていますが、多角的な面で情報交換を行い、この状況を乗り切っていければと思います。
- ・丁寧なご説明有難うございました。コロナ禍において、教育目標に掲げる「スチューデントファースト」を実現することは容易ではないと思いますが、製作室や実習等の新設などの取組みによって学生のモチベーションが上がることを期待します。また、私はテレビ技術会社の採用担当として、貴校からの応募者と毎年向き合っておりますが、近年、「どうしてもこの仕事に就きたい」という意気込みを持った学生さんが少なくなったように感じます。実際の現場に必要な技術は学校だけで習得できるものではありませんが、その魅力・楽しさをお伝えいただき、専門職に夢を持った「若きつくりびと」を多く輩出していただきたいと願っております。
- ・教職員の研修も外部のオンライン研修などを活用してはいかがでしょうか。外部のコンテンツを利用することで学内コンテンツを増やすヒントになるのではないかと思います。
- ・コロナ禍において進路決定率が上がったことは素晴らしいことであったが退学率が上がっている学科が気になりました。
- ・株主総会もオンラインの時代です。保護者会もオンラインで出来たのではないのでしょうか。
- ・工学院の名前に合ったネットワーク、ICT等の環境を整えて上げてください。
- ・時節柄、授業を実施する事や様々な学生支援に工夫をされている事が十分に理解する事が出来、いつものことですが、感心させられる事ばかりでした。今後は、学生への「心のケア」をして頂ければと思います。メンタルトレーニング的なものも取り入れても良いかと思えます。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の4点について検討し活用する。

1. コロナ禍において、教育目標に掲げる「学生中心主義」を教職員一丸となり実行する。
2. 学生・保護者からの要望に応えられるよう、今後とも万全な体制を整える。
3. 質の良い授業(オンライン授業含め)を提供できるよう、教員のスキルアップのための研修等を充実させる。
4. withコロナの新しい時代における高専連携・地域貢献・地域連携を模索していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生/IT 企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	クリエイターズ企 業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	医療 企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和4年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和3年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL:<https://www.neec.ac.jp/public/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程音響芸術科)令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			キャリアプランニング1	就職・進路に向けて準備を行います。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			キャリアプランニング2	就職・進路に向けて準備を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
3	○			ビジネストレーニング1	ビジネス検定の受験とビジネスマナーを学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
4	○			ビジネストレーニング2	ビジネス検定合格をめざし、ビジネスマナーを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
5			○	海外研修	学科の特色に基づいたプランで、本場のエンターテインメントを学びます。	1・通	30	1			○		○	○		
6			○	ボランティア1	社会貢献、地域貢献といった体験を通じて、社会に関わる喜びを得ていきます。	1・通	30	1			○		○	○		
7	○			外国語1	世界の音楽業界で活躍するために外国語の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
8	○			外国語2	世界の音楽業界で活躍するために外国語の基礎を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
9	○			音楽基礎1	アーティストと音楽制作を進める為の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
10	○			音楽基礎2	アーティストと音楽制作を進める為の基礎を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
11	○			ステージシステム1	舞台機構技能検定の内容を基にPAや舞台全般の技術やシステムを学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
12	○			ステージシステム2	舞台音響や舞台全般の技術やシステムを学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
13	○			サウンド基礎	音という現象と音響関連の用語やその理解を目的とします。	1・前	30	2	○			○			○	
14	○			サウンドシステム1	音響関連の用語やその仕組みの理解を目的とします。	1・後	30	2	○			○			○	
15	○			映像音響1	映像や放送関連の用語を学習します。	1・前	30	2	○			○		○		
16	○			映像音響2	映像や放送関連の機器やソフトについて学習します。	1・後	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(芸術専門課程音響芸術科)令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
17			○	ライブステージ鑑賞1	アーティストのステージを観て、周辺を含めたプロの技術を学びます。	1・通	15	1	○			○		○		
18			○	資格対策講座1	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	1・通	15	1	○			○		○		
19			○	資格対策講座2	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	1・通	15	1	○			○		○		
20			○	特別講義1	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・通	15	1	○			○			○	
21			○	特別講義2	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・通	15	1	○			○			○	
22			○	特別講義3	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・通	15	1	○			○			○	
23			○	特別講義4	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・通	15	1	○			○			○	
24			○	マルチメジャー	自分が選択している専攻・コースの枠にとらわれず幅広く学びます。	1・通	15	1	○			○		○	○	
25	○			ProTools1	ProToolsの機能と操作を学び検定合格を目指します。	1・前	60	2			○	○		○	○	
26	○			ProTools2	ProToolsの機能と操作を学び検定合格を目指します。	1・後	60	2			○	○		○	○	
27	○			実習・演習1	スタジオシステム全般を学び、音響機器の基本操作を学びます。	1・前	180	6			○	○	○	○		
28	○			実習・演習2	スタジオシステムを理解し、作品づくりに向けた基本操作を学びます。	1・後	180	6			○	○		○		
29	○			キャリアプランニング3	求人情報の分析や就職・進路に向けて準備を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
30			○	キャリアプランニング4	求人情報の分析や社会人への準備を行います。	2・後	30	2	○			○		○		
31	○			ビジネススキル1	社会人としてのPC活用法を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
32			○	ビジネススキル2	社会人としてのPC活用法を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	

授業科目等の概要

(芸術専門課程音響芸術科)令和4年度																
分類	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択	授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
									講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
			○	ボランティア2	社会貢献、地域貢献といった体験を通じて、社会に関わる喜びを得ていきます。	2・通	30	1			○		○	○		
	○			音楽基礎3	音楽制作ソフトの基本操作を通して音楽を学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
	○			総合業界研究1	音楽・放送・芸能関係の業界の仕組み、仕事について学びます。	2・前	30	2	○			○			○	
			○	総合業界研究2	音楽・放送・芸能関係の業界の仕組み、仕事について学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
	○			サウンドシステム2	音響関連の用語やその仕組みの理解を目的とします。	2・前	30	2	○			○			○	
			○	サウンドコンテンツ	音響的に優れた作品から、音作りの概念や方法を学びます。	2・後	30	2	○			○			○	
	○			映像音響3	映像や画像の編集やアプリケーションについて学習します。	2・前	30	2	○			○		○		
			○	ビジュアルコンテンツ	映像や画像等の作品について学習します。	2・後	30	2	○			○		○		
	○			ProTools3	ProTools認定上位の機能・操作について学びます。	2・前	60	4	○			○			○	
			○	ライブステージ鑑賞2	アーティストのステージを観て、周辺を含めたプロの技術を学びます。	2・通	15	1	○			○		○		
			○	資格対策講座3	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	2・通	15	1	○			○		○	○	
			○	資格対策講座4	学科に関連する資格に対して集中的な対策講座を開催します。	2・通	15	1	○			○		○	○	
			○	特別講義5	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・通	15	1	○			○			○	
			○	特別講義6	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・通	15	1	○			○			○	
			○	特別講義7	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・通	15	1	○			○			○	
			○	特別講義8	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・通	15	1	○			○			○	

授業科目等の概要

(芸術専門課程音響芸術科)令和4年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
48	○			実習・演習3	専攻別にわかれた実習制作を行います。	2・前	180	6			○	○		○	○	
50			○	卒業制作	2年間の集大成として、専攻別に作品を作ります。	2・後	240	8			○	○		○	○	
51			○	インターンシップ	内定した企業で行われる長期研修です。	2・通	540	18			○		○	○		
合計						51科目		2565単位時間(120単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目1320時間(66単位)および選択科目390時間(18単位)以上取得し、合計1710時間(83単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週